

六 次の文章を読み、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

いにしへの事にや。京都に浦井何某といへる町人と、又鍼医に何とや  
(注1)  
 らんいふものと、園池三位卿と三人、常々花鳥風月の友なりしが、あ  
(注2)  
 る時、浦井より医者のもとへ鯉魚を送りけるを、この医、又園池殿へ進  
(鯉)  
 上せり。園池殿にも見事なる鯉なればとて、又浦井が方へ給はりぬ。浦  
(なので)  
 井は我もとより送りし魚なれば、よくも見覚えたるや。かの鍼医を招  
(わたくしが)  
 き、某ころぎとして参らせたる鯉を、料理はなさで、園池殿へは送り  
 給ふといへば、医も驚き何として知れたるといふに、右の由を咄して笑  
(事情)  
 ひける。この事、三位殿聞き給ひ、浦井に見せよとて、  
 はり先にかかりし魚をその池へはなせばもとの浦井へぞ行く  
(『牛馬問』による。)

- (注1) 鍼医＝主に針状の器具を用いた医療を専門として行う医者。  
 (注2) 三位卿＝三位は貴族の位。卿は敬称。三位殿も同じ。

(1) 文章中の いにしへ を現代仮名づかいに改め、全てひらがなで書きなさい。

(2) 登場人物たちの関係を表現している言葉を、文章中から六字で抜き出して書きなさい。

(3) この話のおもしろさを説明した次の文の I と II に入る言葉を書きなさい。ただし、I は文章中から二字で抜き出し、II は十五字以内で書くこと。

自分が贈った鯉魚が、だれにも I されることなく、結局は II こと。

- (4) 最後の短歌が表現していることとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。
- ア 文章中の出来事について、登場人物を表す言葉をたとえに使い、遊び心を用いつつ表現している。
- イ 文章中の登場人物の心情を、その人物に関係あるものにとたとえておもしろおかしく表現している。
- ウ 文章中の出来事から得られた教訓について、しゃれを効果的に織り交ぜ、印象深く表現している。
- エ 文章中の登場人物の生き生きとした言動を、さまざまな表現技法を駆使して力強く表現している。